100円からのCD批評 Others VOL.1

マークポイント	＜評価＞
●	安くても買って損した
●●	どうでも良い
●●●	まあ、いいんじゃな～い
●●●●	かなり満足できた
●●●●●	非常に満足、してやったり！

＜1＞ニューエイジ

Tuck & Patti 「パラダイス・ファウンド；PARADISE FOUND」 200円 {WINDHAM HILL/1998年発売　国内見本版未開封}　秋葉原にて

未開封新品であったので、まあ購入。この２人はテクもあり、うまいのだがどうにも当方の琴線に触れない。サンタナ・オジさんをテーマにした[FORGIVENESS]を取り上げたり、前には「哀愁のヨーロッパ」を収録していたりとどうもサンタナとの交遊関係が気になりますが、恐らく気のやさしいカップルなのだろうとは思う。
収録ナンバーもジャズスタンダードあり、ミニー・リパートンの[ADVENTURE IN PARADISE]や懐かしきダン・ヒックスの[WALKIN ONE & ONLY]といったちょいと変な選曲で、この人達結局昔のウエストコーストサウンドがルーツにあるんだと思わせる。 満足度／●●　　（購入日：2000.12.10）

＜2＞ライトポップス

Taro　Hakase　[TARO] 50円　{SONY/1998年発売　アメリカ盤}　柏にて

真っ先に値段が目に入ってきて手にとってみたら、あらま元クライスラー＆CO.の葉加瀬太郎のアルバムでして、ソニークラシカルレーベルでのアメリカ向けアルバム。例のセリーヌディオン「タイタニックのテーマソング」からハカセタローは世界に知られるようになって、このアルバムでも最後に[TO LOVE YOU MORE]をとりあげているが、別にどうという感じでもなく、あくまでも一応アルバムに収めましたという感じ。ラテンの名曲を2,3取り上げているのだがいかんせんアプローチが今風すぎて、こちとら好みじゃないね～。マヌエル・ファジャの[SPANISH DANCE]などはまだ許せるが、ティトプエンテの名作[OYE COMO VA]をこんな風にアレンジしちゃいかん！マンネリでもいいからあのスタイルは崩すとまったく聴けなくなる（もっともクラシック路線から大きくはずれるかな？）。ただし、ポンセの[ESTRELLITA]はなかなか良い選曲ではなかろうか。ソニーライトクラシックの路線CDです！ 満足度／●●　　（購入日：2001. 2.19）

＜３＞BGM？

Kenny G 「グレイティスト・ヒッツ；KENNYGREAT HITS」 200円 {BMG/1997年発売　国内見本版}　秋葉原にて

　２枚組でこの値段、よって即購入という次第。私にとってこういった音楽は、特にバックグランドで流して環境音楽でいいと思う範疇のもので、パソコンいじりながらただその場に流れているのが正解。しかし、アメリカ人はこういうのが結構好きなんだよな～、人畜無害、だしの利かない吸い物の出来そこないみたいで、ちゃんと聴くのは反対にシンドイ。こういったジャンルの音楽が1年以上アルバムヒットチャートの上位にランクされるというのは、やはり潜在的にアメリカは癒されたい人がものすごく多い証拠であろうと思う。ホント、何が理由でこれがそんなに素晴らしく評価を受けるのか、ポップス界の七不思議である。　フランク・シナトラとの共演がご愛嬌。 満足度／●●　　（購入日：2000.12.10）

＜４＞クラシックジャズ？

Labeque（Katia＆Marielle）　「ラブ・オブ・カラーズ；LOVE OF COLORS」　280円 {SONY/1990年発売　日本盤}　柏にて

　一応クラシックのピアニストで姉妹であるという事は予備知識で判っていた程度だったが、アルバムコンセプトがジャズミュージシャンの曲を2人のピアノデュオでプレイするというので興味を持った。ミシェル・カミロから始まって、マクラフリン、マイルス、チック・コリア、モンクなどの作品をやってるが、何となくクラシックっぽくなっている。アレンジでマクラフリンが関わっていて、彼の感性が影響しているのかとも思われるが、やはり情感には乏しい。やっぱりクラシック畑の人がやる楽譜によるジャズ演奏の感覚が否めない（品行方正すぎちゃって、汚れジャズミュージシャンの与太精神が微塵もないから…）。反対にチックの[SPAIN]はクラシック向きの楽曲である事をここでも示している。また、シンセサイザーを曲によっては取り入れているのだが、ピアノタッチに比べ切れが悪くなってしまう。 まあ、アンビエントミュージックとしての効果はある。 満足度／●●　　（購入日：2000.10.9）

＜５＞クラシック

Michael Legrand 「エリック・サティ・ピアノコレクション；ERIK SATIE」 500円 {ERATO/1994年発売　国内盤未開封}　松戸にて

　フランスのジャズ、映画音楽などの分野で活躍しているミシェル・ルグランのクラシックアルバムという事で、サティを全編にわたって演奏している。「退屈である事が身上」ともいえるサティの音楽世界をルグランは、自分を押さえて演奏しており、ここにはピアニストたるルグランがいる。ピアニストにとってサティの世界はどのように映っているのかわからないが、無駄なテクニックを削ぎ落として極力シンプルで平易な演奏となっていて、クラシックというより、ニューエイジ、いや私にとって、これも環境音楽として流しておくのに最適なCDとなっている。　ところで、サティって皆さんが騒ぐほどすごい作曲家なのかな～？よくワカンナイというのが、小生の本音。やっぱし、本当に退屈な曲が何曲もあるんですけんど～、これ私の耳のせいかな？ 満足度／●●　　（購入日：1999.8.10）